

セルリアンタワー能楽堂 開場二十周年記念

定期能七月—喜多流—

二〇二二年 七月三日(土)
午後四時開演(午後三時三十分開場)



撮影・東條睦子

解説

能 半部

金子直樹

友枝昭世

CERULEAN TOWER

能楽堂

NOH THEATRE

解説

金子直樹

— 休憩(十分) —

夕顔の女の霊
里の女 友枝 昭世

能半部

雲林院の僧 大日方 寛

所の者 高澤 祐介

大鼓 國川 純
小鼓 森澤 勇司
笛 松田 弘之

後見 中村 邦生
友枝 雄人

地謡 佐藤 寛泰 狩野 了一
佐々木多門 長島 茂
大島 輝久 香川 靖嗣
友枝 真也 金子敬一郎

〈終演予定 午後六時十分〉

◎半部(はしとみ)

雲林院の僧が夏安居(夏の修行)の終わりに、立花供養(その期間に仏に供えた花々の供養)を行います。そこへ二人の女が現れて夕顔の花を手向けます。僧が女に名を尋ねるとただ夕顔の花とだけ答え、更に問い詰めると五条あたりとだけ答えて、活けられた花の陰に消え失せます。〈中人〉僧が不思議に思っていると、所の者がやって来て光源氏と夕顔の物語を聞かせ、その女は夕顔の亡霊であろうと述べ、申すをすすめます。僧が五条あたりを訪ねてみると荒れ果てた二軒の

家に夕顔が咲いており、寂しい秋の景色を眺め『源氏物語』の昔を偲んでいると、半部を押し上げて二人の女が現れます。女は光源氏との思い出を語り、舞を舞いますが、夜明けを告げる鐘と共に僧に別れを告げ、また半部の中へ消えて行ったと見えましたが、それは僧の夢の中のことでした。
シテは夕顔の花の精とも夕顔の女とも取れ、花と女との茫漠とした描き方がはかない生命の夕顔の花に寄せられ効果的です。恋の思い出に生きる、ひそやかな女の純情を描いた詩的な作品です。

2021年
7月3日(土)

午後4時00分開演(午後3時30分開場)

◎前売開始：2021年4月3日(土) 午前10時00分より

◎料金：S席(正面) 12,000円
(税込み) A席(脇正面) 10,000円
B席(中正面) 8,000円

◎チケット申し込み：

- ▶ Bunkamura チケットセンター 03-3477-9999 (10:00-17:00)
- ▶ オンラインチケットMY Bunkamura <https://my.bunkamura.co.jp> [PC・スマホ対応/座席選択可]
- ▶ Bunkamura チケットカウンター Bunkamura1F 正面入口右手 (10:00-18:00)
- ▶ 東急シアターオーブ チケットカウンター 渋谷ヒカリエ2F (11:00-18:00)

※営業時間は変更になる可能性がございます。何卒ご了承ください。

※Bunkamuraでの一般発売日(4月3日(土))は、Bunkamuraチケットセンター電話およびオンラインチケットMY Bunkamura(PC・スマートフォン)での受付となります。チケットカウンター(店頭)販売はございません。

※都合により公演の一部(出演者・曲目等)を変更する場合がございます。ご了承ください。

「渋谷駅」国道246号線沿いにそびえる超高層ビル「セルリアンタワー」の地下2階。

